

「事例検討研修会」平成28年度後期活動報告について

1 報告事項

(1) 第11回事例検討研修会（平成28年11月9日開催）

今回からケース事例に加え、計画作成に関する事例も合わせて検討を行うこととした。今回は、こころ悠々の事例を検討した。

ア ケース事例

(ア) 検討内容について

一人暮らしで基本的な日常生活動作は自立しているが、気分の波が激しい精神障害者の案件を検討した。父が加齢に伴い支援が難しくなったため、今後は支援者が兄へ移行していくことになるが、どのタイミングで移行していくべきか、また、どのような支援が必要となるかを検討した。

(イ) 課題について

父に頼りすぎず、自立した生活を送りたいという本人の希望を叶えるためには地域の受け皿を増やす必要がある。精神障害者のグループホームや日中の活動場所が不足していることが課題として挙げられた。

イ 計画作成に関する事例

(ア) 検討内容について

サービスの必要性を感じていないが、障害が原因で停職となった視覚障害者の案件を検討した。片目が見づらくリハビリセンターに通うが、本人の意図ではなく会社など周りから言われるため渋々利用する。本人としては「困っていることはない」と考えているため、どのように計画作成を進めるべきか検討した。

(イ) 課題について

モニタリングを重ねていくうちに本人の障害への理解が進んだ。障害者枠で復職することができたため、計画の目的と結果にズレは生じなかったが、通っていた事業所に連絡を取ることで本人の障害に対する理解が早まった可能性があるため、事業所間の情報共有が課題とされた。

(2) 第12回事例検討研修会（平成29年2月10日開催）

今回は、ペガサス・Ⅱの事例を検討した。

ア ケース事例

(ア) 検討内容について

入所施設からグループホームへ移行した知的障害者の案件を検討した。日中活動サービスに参加できず、生活リズムが崩れてしまっている。生活介護に毎日通えるようにするためにどのような支援が必要か検討した。

(イ) 課題について

本人の意欲が低い中、将来へのイメージを持ってもらうことで今の生活を見直すきっかけとなるように支援していくことの難しさが課題とされた。

イ 計画作成に関する事例

(ア) 検討内容について

施設入所支援を利用している人の個別支援計画とサービス等利用計画の整合性を図るためには、サービス等利用計画の表記が漠然としたものになってしまう。入所者全員分の計画の目標が同じものにならないためには、どのように工夫していくべきか検討した。

(イ) 課題について

それぞれの立場から見た計画書であるため、2つの計画の内容が全て同じになることは難しい。支援の大きな方向性が同じであれば問題ないと思うが、県の事業監査で説明できる内容にしていくための検討は必要である。

2 平成28年度の目標に対する総括及び今後の検討課題

事例を通して支援員のスキルアップ及び情報共有が図れた。今年度から取り入れた複数の事例や計画作成に関する事例の検討を今後も実施していく。